

# 決算説明会

2024年 3月7日

 **立川ブラインド工業株式会社**

(東京証券取引所 プライム市場 証券コード 7989)

**1. 2023年12月期 決算概況**

**2. 2023年～2025年  
中期経営計画の進捗状況**

**3. 企業価値向上の取組み**

**Appendix**



# 1. 2023年12月期 決算概況

## 連結業績

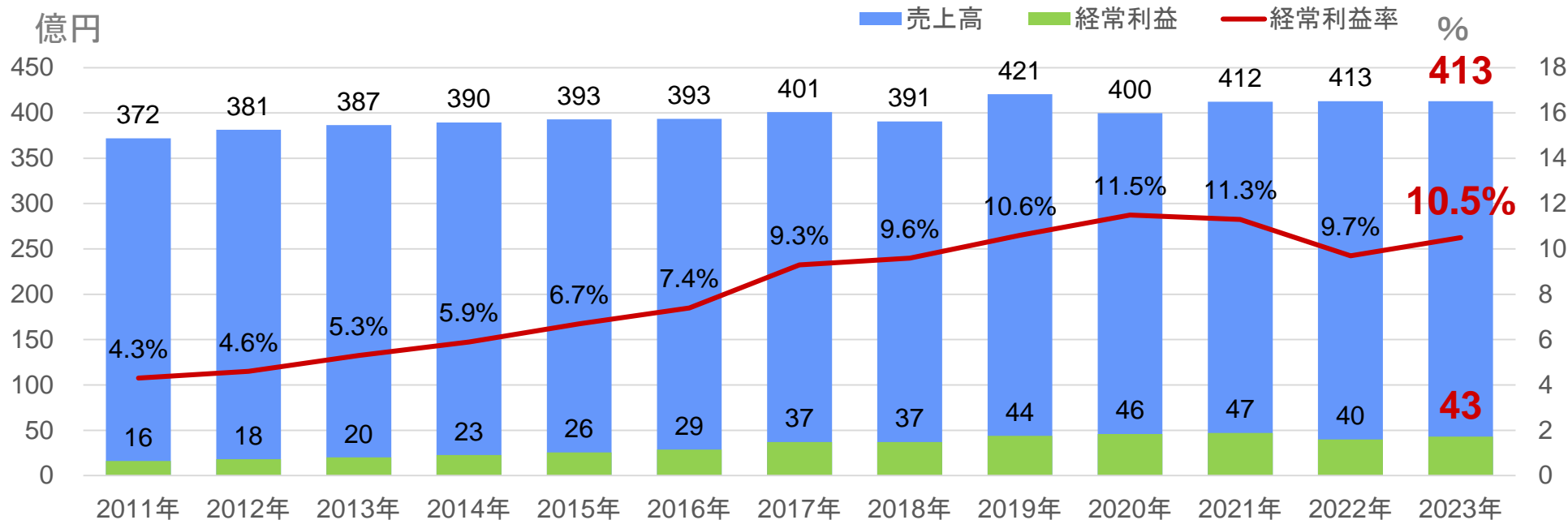
(単位：百万円)

	2022年度		2023年度			
	金額	構成比	金額	構成比	前年差	前年比
売上高	41,296	100.0%	<b>41,305</b>	<b>100.0%</b>	<b>+9</b>	<b>100.0%</b>
売上総利益	16,929	41.0%	<b>16,873</b>	<b>40.8%</b>	<b>△56</b>	<b>99.7%</b>
販売費及び一般管理費	13,107	31.7%	<b>12,826</b>	<b>31.1%</b>	<b>△280</b>	<b>97.9%</b>
営業利益	3,822	9.3%	<b>4,046</b>	<b>9.8%</b>	<b>+223</b>	<b>105.9%</b>
経常利益	4,005	9.7%	<b>4,327</b>	<b>10.5%</b>	<b>+321</b>	<b>108.0%</b>
親会社株主に帰属する当期純利益	2,520	6.1%	<b>2,708</b>	<b>6.6%</b>	<b>+188</b>	<b>107.5%</b>

## トピックス

- ・売上高は、室内外装品関連事業、減速機関連事業が増収。駐車場装置関連事業が減収。
- ・売上総利益率は0.2ポイント減少  
 原材料価格が高止まりするなか、一部製品において販売価格の改定を実施。  
 生産設備への投資により、減価償却費が増加。
- ・処遇の改善を図り人件費を増加させた一方、販促物の効果的な投入やコスト削減を進めることで、販管費総額を抑制。

## 連結業績推移



## トピックス

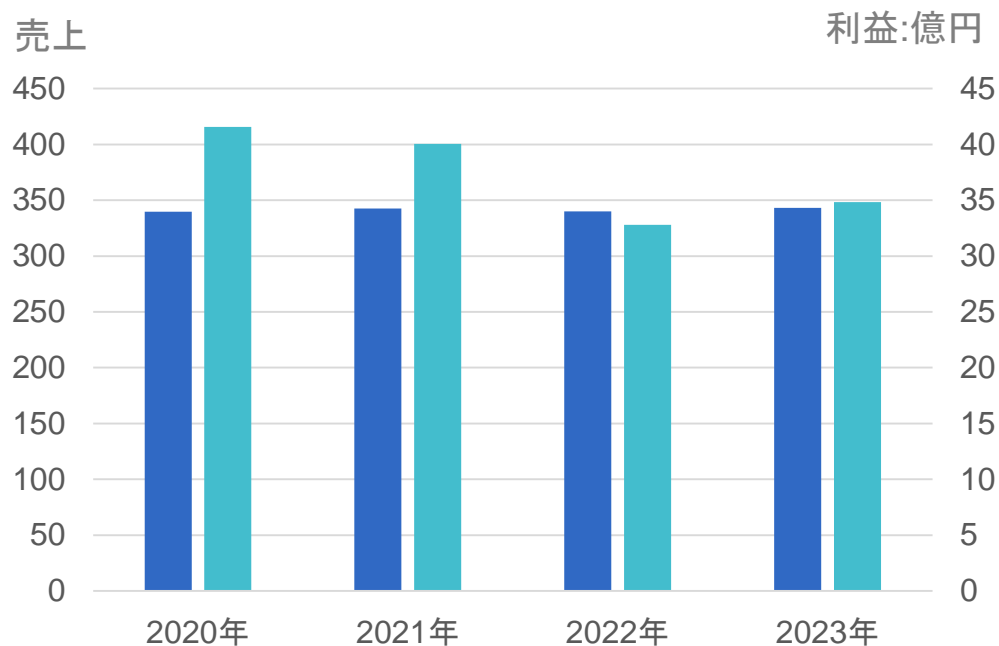
### 【売上高】

- ・将来的に新設住宅着工戸数の減少が見込まれるなか、高付加価値製品の拡販や一部製品の販売価格の見直しを推進し、販売単価の上昇に取り組む。

### 【経常利益】

- ・2022年は急激な原材料高騰により減益となったが、2023年～2025年の中期経営計画で現在の経営環境に合わせた収益獲得体制の構築に取り組み、2023年は収益力を改善。

## 室内外装品関連事業



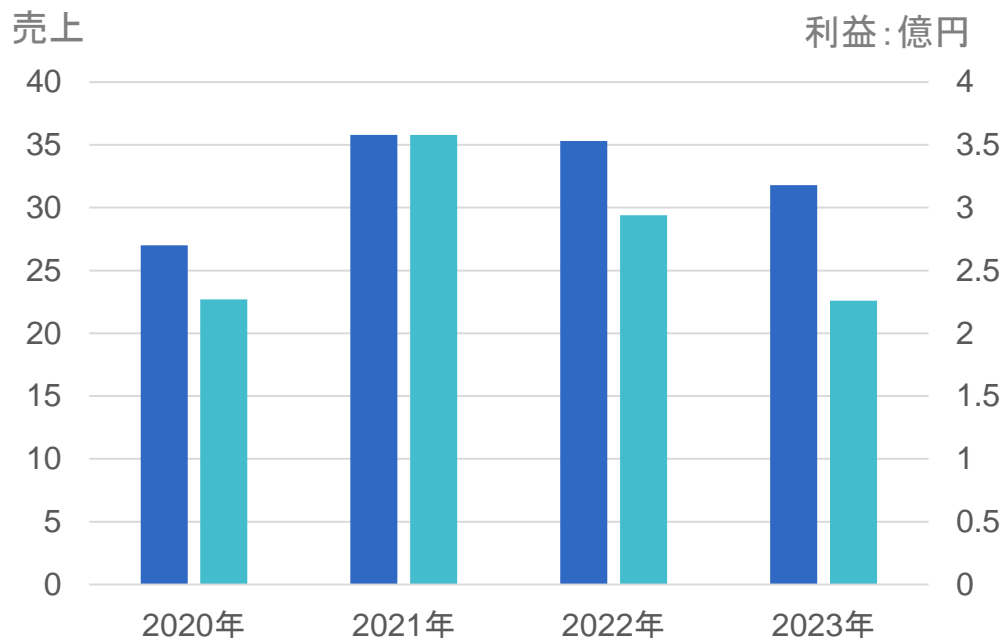
売上高	前年比
343億23百万円	101.0%
営業利益	前年比
34億84百万円	106.3%



### 2023年度概況

- 新設住宅着工戸数減少の影響を受け、住宅向け売上が減少。
  - +
  - +
  - +
- 非住宅向け市場において、ホテル物件の改修更新案件や、医療介護施設向けの間仕切り需要を獲得し、売上が増加。
- 一部製品の価格改定を実施。収益性が改善。
- 生産子会社で樹脂部品の成形棟を新設し、動線の改善や外注部材の内製化などのコストダウン施策を推進。

## 駐車場装置関連事業



売上高	前年比
-----	-----

31億79百万円	90.1%
----------	-------

営業利益	前年比
------	-----

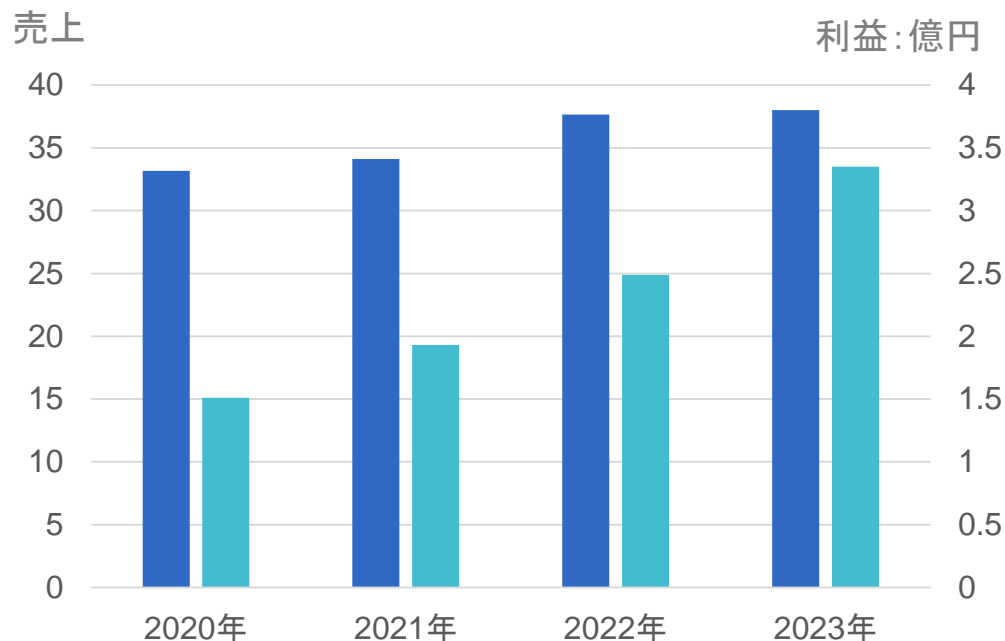
2億26百万円	77.1%
---------	-------



### 2023年度概況

- 新設パズルタワー物件の売上は近年堅調に推移するも、ピークであった2021年～2022年に比べ2023年は売上が減少。
- +
- 付加価値提案を積極的に行い、既存納入物件に対する改修工事や保守売上が堅調に推移。
- 近年の鋼材価格の高騰により、パズルタワー物件で受注見積もり時に計画していた利益の確保ができず、営業利益が減少。

## 減速機関連事業



売上高	前年比
38億01百万円	101.0%
営業利益	前年比
3億35百万円	134.6%



### 2023年度概況

- ＋ 無人搬送台車駆動用減速機など、特注品の売上が増加。
- － 産業用機械需要の弱まりから、定番製品・OEM製品の売上が減少。
- ＋ 一部製品の価格改定を実施。収益性が改善。
- ＋ 将来的な事業拡大を目指し、既存事業とのシナジー効果が見込めるサーボモータ事業を2024年1月に譲受。



## 貸借対照表 主な変動要因

単位：百万円  
( )内は前期からの変動額

### 《主な変動要因》

#### 流動資産

- ・現金及び預金の減少 (△665)
- ・棚卸資産の減少 (△181)

#### 固定資産

- ・有形固定資産の増加 (+1,097)
- ・評価益による投資有価証券の増加 (+467)

総資産63,142百万円 (+555)

流動資産  
39,110  
(△855)

固定資産  
24,031  
(+1,411)

負債  
12,699  
(△1,255)

純資産  
50,442  
(+1,810)

### 《主な変動要因》

#### 負債の部

- ・支払手形・買掛金の減少 (△1,186)
- ・設備に関する債務の減少 (△748)
- ・未払法人税等・未払消費税の増加 (+863)

#### 純資産の部

- ・当期純利益(+2,708)
- ・配当金の支払(△630)
- ・自己株式の増加(△818)
- ・評価差額金の増加(+850)

※自己資本比率 72.9%

## 営業活動によるキャッシュ・フロー

+4,314百万円

- ・税金等調整前当期純利益 4,342百万円
- ・減価償却費 1,205百万円
- ・法人税等の支払  $\Delta$ 1,084百万円

## 投資活動によるキャッシュ・フロー

$\Delta$ 2,928百万円

### ・固定資産購入 $\Delta$ 2,866百万円

(成形棟の建設、技術研究棟の建設、関東支店の建設、札幌製作所の移転候補地の購入、主要支店移転候補地の購入など)

## 財務活動によるキャッシュ・フロー

$\Delta$ 1,978百万円

### ・株主への配当金の支出 $\Delta$ 672百万円

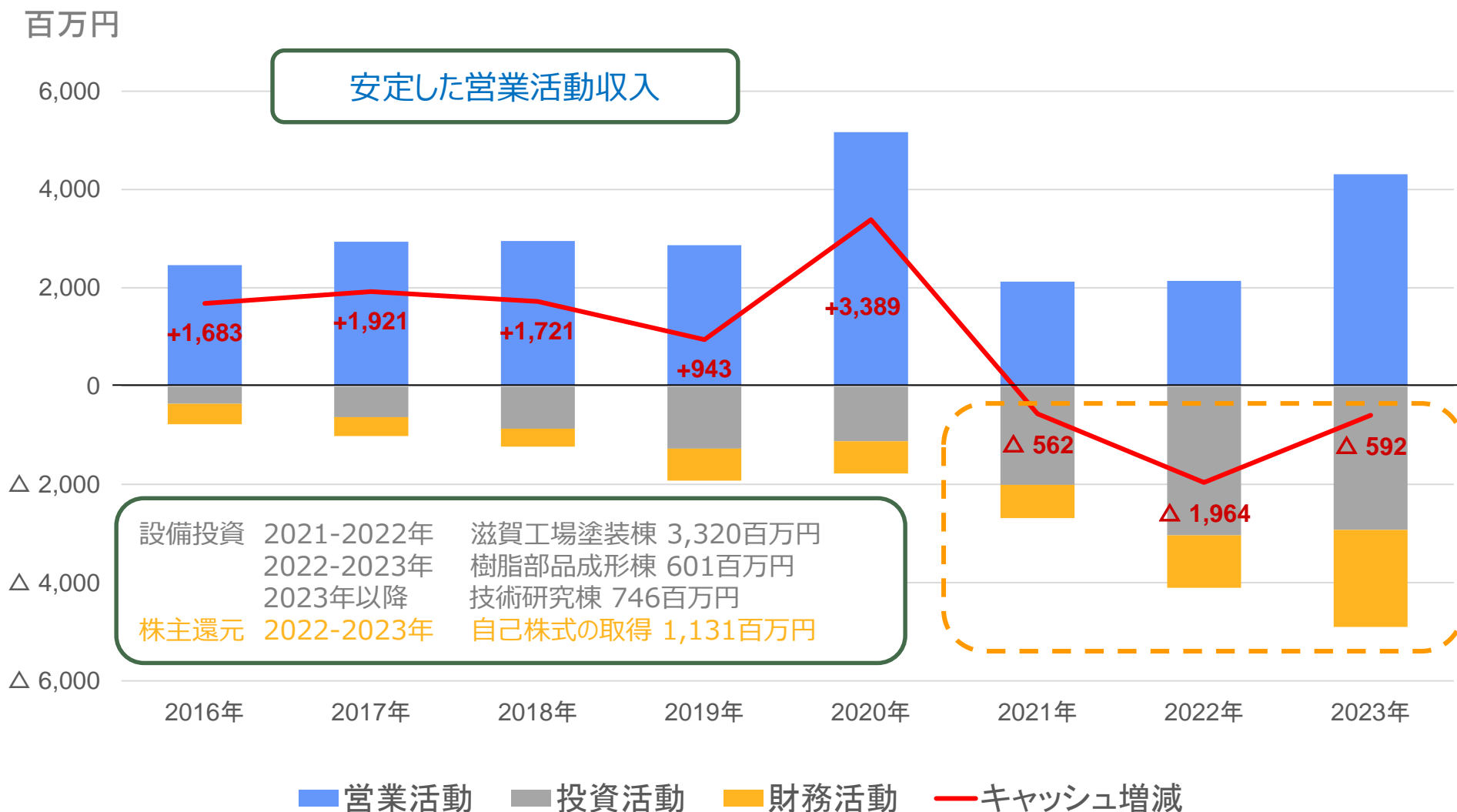
年間配当額1株当たり31円→36円へ増配

### ・自己株式取得による支出 $\Delta$ 818百万円

### ・連結子会社での自己株式取得による支出 $\Delta$ 299百万円

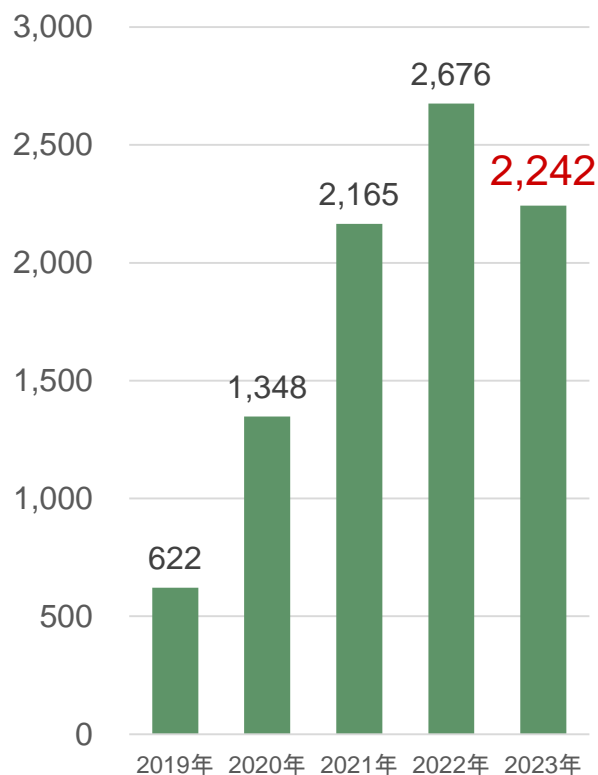
# キャッシュ・フローの過年度推移

2021年以降設備投資や株主還元積極的に現預金を活用



## ①設備投資額

(単位：百万円)

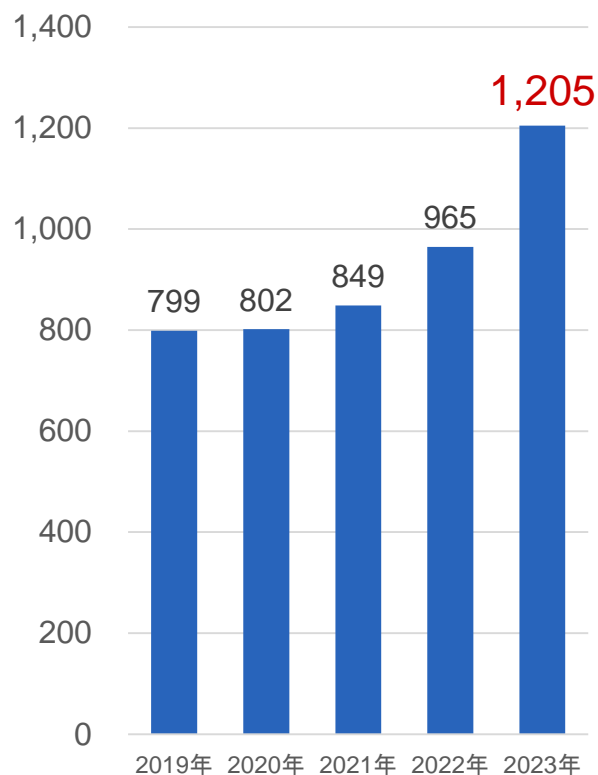


事業の継続に向け、設備投資を強化

滋賀工場の塗装設備、技術研究棟の建設  
事業拠点移転候補地の購入 等

## ②減価償却費

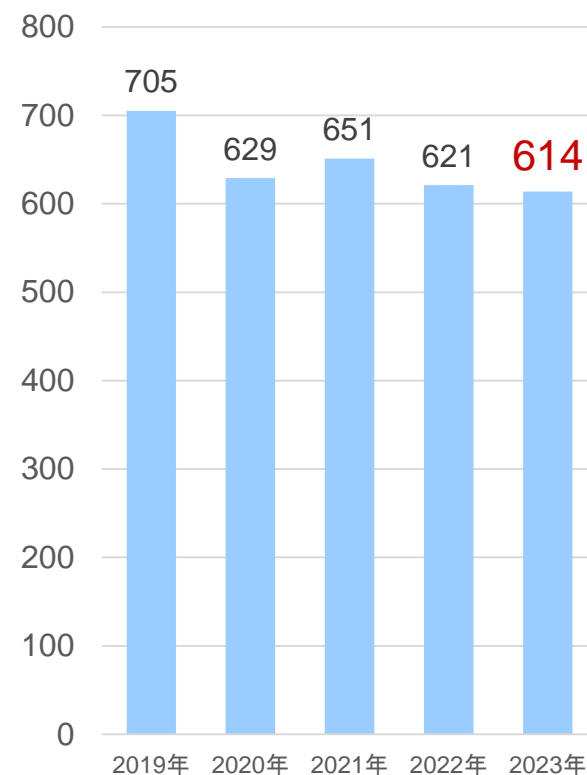
(単位：百万円)



2022年11月の滋賀工場  
塗装棟の稼働により増加

## ③研究開発費

(単位：百万円)



製品の開発スピードと質の向上  
を目的とし、技術研究棟の建設  
を推進中

2024年9月竣工予定



## 2. 2023年～2025年 中期経営計画の進捗状況

## ビジョン

### タチカワビジョン2025 ～継続と進化～

ものづくりとマーケティング

経営基盤の強化

サステナビリティへの取組み

## 戦略

### 室内外装品関連事業

- ・マーケティングの継続・進化
- ・技術革新
- ・生産体制の強化
- ・戦略に必要な人材の確保と育成
- ・計画的な事業拠点整備

### 減速機関連事業

- ・個別品の差別化戦略
- ・カタログ品の販売強化

### 駐車場装置関連事業

- ・新規物件獲得強化
- ・付加価値提案による改造・改修物件の獲得

### サステナビリティ

#### E (環境)

- ・温室効果ガス排出量の削減
- ・環境配慮型設計の推進

#### S (社会)

- ・人にやさしい快適な環境づくり
- ・健康経営の推進
- ・社員の多様性拡大

#### G (ガバナンス)

- ・コーポレートガバナンス強化
- ・リスクマネジメントの強化
- ・コンプライアンスの徹底

## 1 ものづくりとマーケティング

### 戦略

- マーケティングの継続・進化
  - ・ 「安心・安全・快適・環境」を基本とした製品開発と販売促進
  - ・ 電動製品、間仕切製品による新たな快適な住空間の提案
  - ・ デジタルマーケティング強化と、リアルとデジタルを融合させたマーケティングの進化
- 技術革新
  - ・ 技術研究棟の新設と活用
- 生産体制の強化
  - ・ 生産拠点整備

### 主な活動

- 主な新製品・リニューアル
  - ・ ヨコ型ブラインド カラーラインアップ リニューアル
  - ・ 調光ロールスクリーン ルミエ 発売
  - ・ 家庭用電動製品のHEMS対応
  - ・ 間仕切り「プレイス、プレイススウィング」リニューアル
- 2019年以來の新製品発表会開催（全国13会場）
- インスタグラム公式アカウントの開設
- 立川機工 樹脂部品 新成形棟竣工（2023年4月）
- 技術研究棟の着工（2023年10月着工、2024年9月竣工予定）
- 札幌製作所移転プロジェクト発足（2026年竣工予定）

### 今後の主な取り組み

- マーケティングの継続と進化
  - ・ 製品を基軸としたマーケティングの継続
  - ・ 「安心・安全・快適・環境」に「健康」をテーマに加えた製品政策と販促活動
  - ・ 電動、間仕切製品のラインナップ強化と整理
  - ・ インフルエンサー活用による製品訴求
- 技術研究棟本稼働
  - ・ 2024年9月竣工後の本格稼働に向けた体制作り
  - ・ 専門人材確保、技術研究棟を活用した製品開発
- 生産拠点整備計画の推進
  - ・ 札幌製作所移転をはじめとする生産拠点整備の推進
  - ・ 各生産拠点の生産品目最適化



樹脂部品 新成形棟竣工

## 技術研究棟の新設

### ● 概要

所在地	千葉県船橋市西浦2-8-7
竣工	2024年9月予定
投資額	7.5億円予定（自己資金）
敷地面積	914㎡
構造	地上4階建 建築面積 463㎡ 延床面積 1,372㎡
特長	設置環境を含めた新規研究開発・実証試験拠点 省エネ設備、空調・照明一元管理システム導入



技術研究棟 外観イメージ

### ● 目的・効果

#### ① 開発スピードの向上

- ・複数拠点に分散していた研究・開発設備を集約。
- ・作業スペースや多様な試験装置の充実により開発スピードを向上。

#### ② 開発力および開発の質の向上

- ・快適な開発環境を整備し新たな視点・発想により住空間における「安心・安全・快適・環境」を基本とした製品開発や価値を創造。
- ・社外との技術交流や、先進的な開発の社内取込により開発力を向上。

#### ③ 当社製品の提案機会および機能性訴求の強化

- ・実際の設置場所や使い方を想定した環境下で製品提案が可能。
- ・施主や設計、ゼネコン等への技術研究棟を活用した当社製品の機能性の訴求により受注獲得機会を強化。

#### ④ 新技術開発への当社取り組み

- ・建築物の省エネやウェルビーイングに貢献する製品の研究開発および将来に向けた研究テーマへの取り組み等、新技術や新素材、新製法を活用した研究開発を推進。



## 2 経営基盤の強化

### 戦略

- 戦略に必要な人材の確保と育成
  - ・ 新卒・中途採用の強化
  - ・ 研修プログラム見直し、中途採用向け研修強化
  - ・ 女性管理職の増加
  - ・ 時間外労働削減、有給休暇取得率向上
- 計画的な事業拠点整備
  - ・ 全国支店、営業所の最適化
  - ・ 働きやすい職場環境整備

### 主な活動

- 人事処遇の改善
  - ・ ベースアップの実施、賞与月数の改善
  - ・ 初任給の引き上げ
- ジョブリターン制度の導入
  - ・ 自己都合退職者の復職制度を導入
- 中途採用向け研修の実施  
2021年度以降の中途採用の正社員を対象とした集合研修を実施。
- 時間外労働の削減、有給休暇取得の向上
- 事業拠点整備計画の推進
  - ・ 関東支店移転・ショールーム新設（2023年5月）
  - ・ 本社ビルおよび各支店の照明LED化推進

### 今後の主な取り組み

- 新卒・中途採用強化の継続
  - ・ 初任給の引き上げや地域限定採用の積極活用
  - ・ 若手・中堅社員への処遇改善
- 社員の育成と離職率低減
  - ・ 入社3年目研修の実施
  - ・ キャリアのロードマップ策定と社員への明示
- 健康経営強化に向けた活動の推進
  - ・ 時間外労働削減、有給休暇取得向上に向けた取り組みの継続
- 事業拠点整備計画に基づく活動の推進継続
  - ・ 全国支店、営業所の最適化
  - ・ 利用率の低い福利厚生施設等の保有資産売却



関東支店移転・ショールーム新設

## 3 サステナビリティへの取り組み

### 戦略

- 環境負荷低減、気候変動問題への対応
- 快適な住空間の提供、働きやすい環境の構築
- グループガバナンスを重視した経営

### 主な活動

- 2023年 2月 サステナビリティ委員会設置
- 2023年 3月 サステナビリティ基本方針の策定とマテリアリティ特定
- 2023年11月 統合報告書の開示
- GHG排出量の削減
  - ・ 2023年1月～9月累計 4,543t-CO<sub>2</sub> (前年比92.7%)
- 資源の有効活用
  - ・ リサイクル率 2023年12月累計 98.4%
  - ・ 廃棄物総排出量 2023年12月累計 720.7 t
- コーポレートガバナンスの強化
  - ・ 指名・報酬委員会の設置 (2023年11月)

### 今後の主な取り組み

- マテリアリティ解決に向けたアクションプランの実行と目標・KPI達成に向けたPDCAサイクルの運用
- GHG排出量削減施策の推進
  - ・ 事業所の照明LED化、省エネ設備への更新
  - ・ 業務車両の低燃費車化
- サプライチェーン全体のGHG排出量(Scope3)実績の把握に向けた体制構築
- 大規模災害や身近な風水害等の災害を想定したBCPの更新



## 4 減速機関連事業 駐車場装置関連事業

### 戦略

#### 【減速機関連事業】

- 個別品の差別化戦略
- カタログ品の販売強化

#### 【駐車場装置関連事業】

- 新規物件獲得強化
- 付加価値提案による改造・改修物件の獲得

### 主な活動

#### 【減速機関連事業】

- 医療・介護分野での個別減速機 新規獲得
- 歯車加工、動力伝達技術の市場攻略
  - ・ 養殖用ギヤードモータの量産化やナットランナー用ギヤードモータの推進を実施

#### 【駐車場装置関連事業】

- 新製品「高層パズルタワー ビヨンド」発売
- 保守物件への付加価値提案の実施
  - ・ EV充電の既存物件への展開
  - ・ マンション向け出庫予約システム
  - ・ オートゲートクローズシステム 等

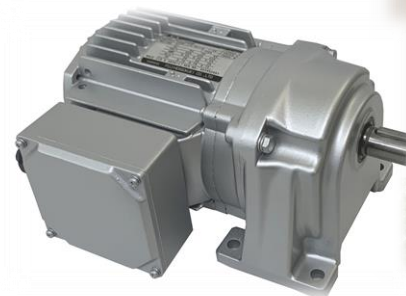
### 今後の主な取り組み

#### 【減速機関連事業】

- 個別品の強みを活かした差別化戦略の継続
- グループシナジーを活かした新規チャネル展開
- サーボモータ事業譲受による新規事業展開

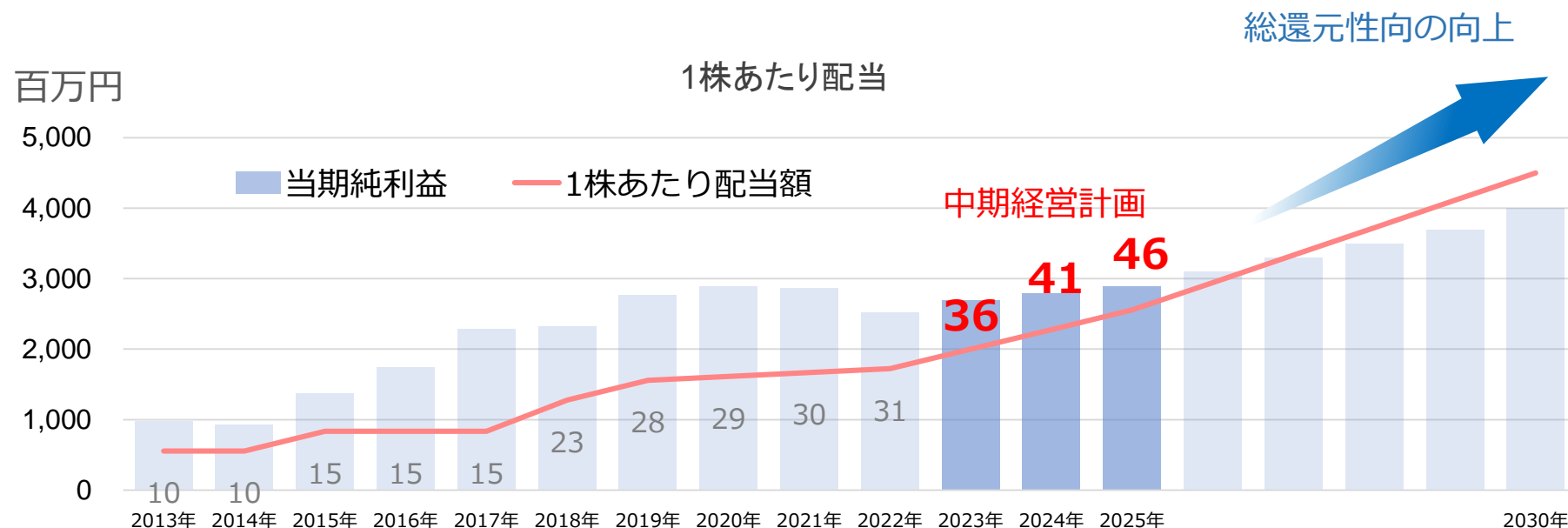
#### 【駐車場装置関連事業】

- パズルタワー ビヨンドによる中期的受注獲得
- 保守契約に対する付加価値提案の継続
- 機械式駐車装置内への全車室EV充電ステーション設置
- 既存機械式駐車場へ出庫予約システム等導入



## 株主還元の方針（継続）

- ・ 減配せず、配当水準を維持 または 増配を継続。
- ・ 2023-25年の中期経営計画期間中は、**年5円増配**を継続。
- ・ 2030年に向けて増配ペースを引上げ、経営環境に応じ自己株式の取得を進めることで、**総還元性向50%**を目指す。



**2023年12月期 実績**

配当性向 25.1%

総還元性向 55.3%

自己株式取得 604千株 818百万円

# 中期経営計画 連結業績目標の進捗状況

(単位：億円)

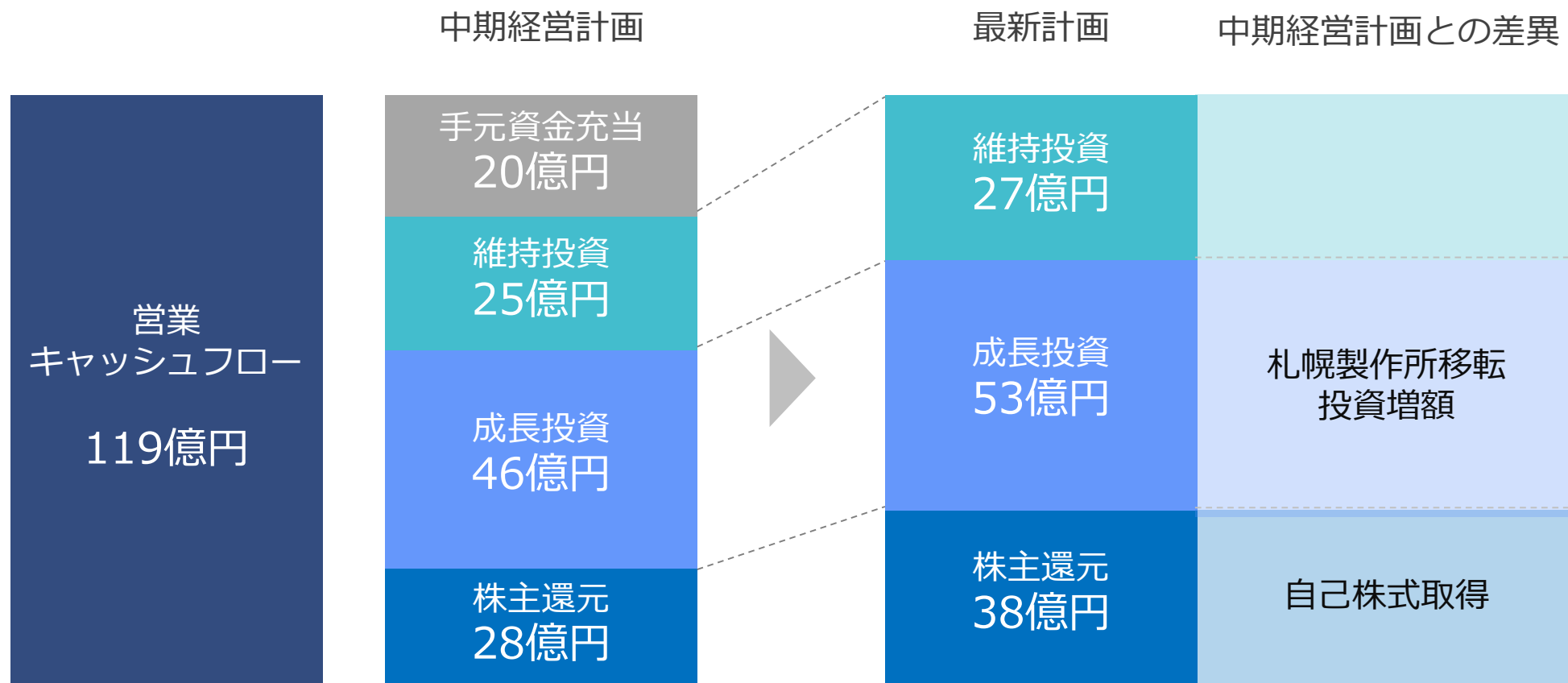
	2023年12月期			2024年12月期		中期経営計画 最終年度目標 業績目標
	実績	前年比	計画比	業績予想	前年比	
売上高	<b>413.1</b>	100.0%	96.5%	<b>428.0</b>	103.6%	<b>445</b>
室内外装品事業	<b>343.2</b>	101.0%	96.1%	<b>356.0</b>	103.7%	<b>371</b>
減速機事業	<b>38.0</b>	101.0%	96.5%	<b>40.0</b>	105.2%	<b>41</b>
駐車場事業	<b>31.8</b>	90.1%	100.3%	<b>32.0</b>	100.6%	<b>33</b>
営業利益	<b>40.5</b>	105.9%	99.4%	<b>41.8</b>	103.3%	<b>44</b>
経常利益	<b>43.3</b>	108.0%	100.6%	<b>43.6</b>	100.8%	<b>46</b>
当期純利益	<b>27.1</b>	107.5%	100.3%	<b>27.6</b>	101.9%	<b>29</b>

## 【業績進捗】

- 2023年度は、想定以上の住宅市況の落込みがあったが、価格改定等の効果により、売上は目標未達ながら増収を確保。利益面は、計画通りの進捗。
- 更なる価格改定等を視野に、中期経営計画最終年度（2025年度）の目標達成に向けて推進。また、将来的な事業領域の拡大についても、検討を開始。

## キャッシュアロケーション

2023年から2025年までの連結営業キャッシュイン119億円を原資に、株主還元と成長投資を強化





## 3. 企業価値向上の取組み

$$PBR = ROE \times PER$$

0.56倍      6.0%      9.7倍  
(+0.2%)

- ・ PBRは 前年より徐々に改善
- ・ 株価・PBRの向上に向け、ROEの更なる改善に向けた取組みが必要

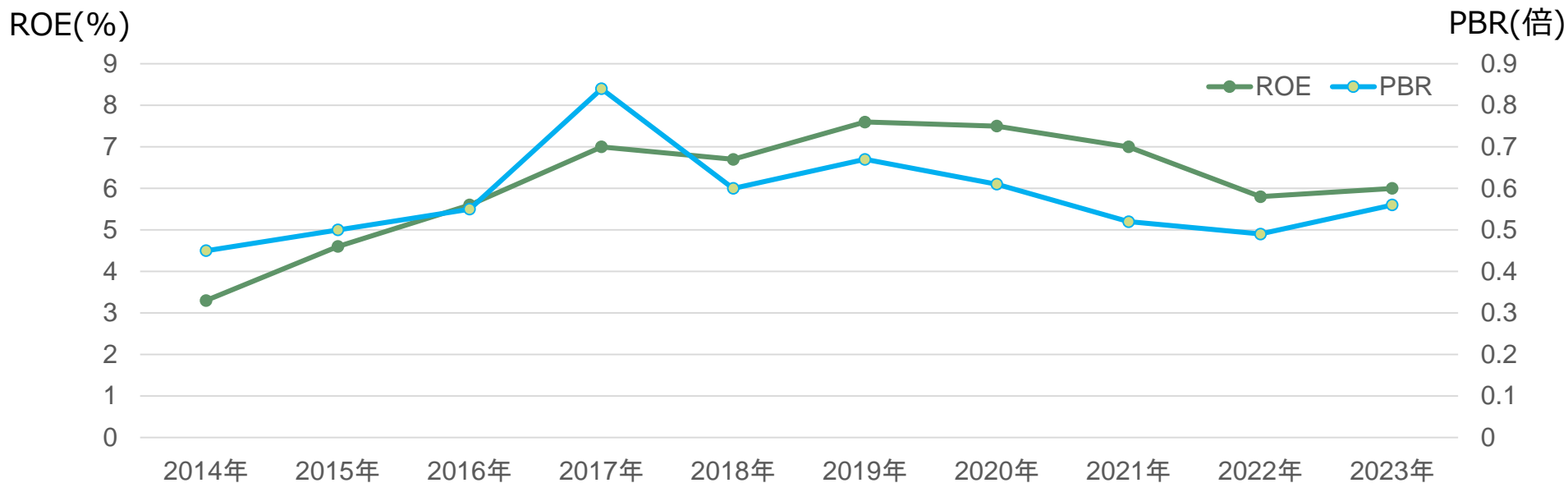
項目	指標 (前年差)	対策	状況・課題
収益性	売上高純利益率 6.6% (+0.5%)	・ 主力事業の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 売上高が計画未達となるなか、利益計画を達成</li> <li>・ 収益源となる売上高の拡大が課題</li> </ul>
資産効率性	総資産回転率 0.66回転 (△0.01回転)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現預金の活用</li> <li>・ 保有資産の売却</li> <li>・ 棚卸資産の抑制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現預金を積極的に設備投資や株主還元を活用</li> <li>・ 棚卸資産の抑制が課題</li> </ul>
財務健全性	財務レバレッジ 1.40倍 (△0.03倍)	・ 株主還元強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 株主還元方針に則り、持続的増配、自己株式の取得を実施</li> <li>・ 長期的な取組みが必要</li> </ul>

※2023年12月末時点



# ROE・PBRの過年度推移

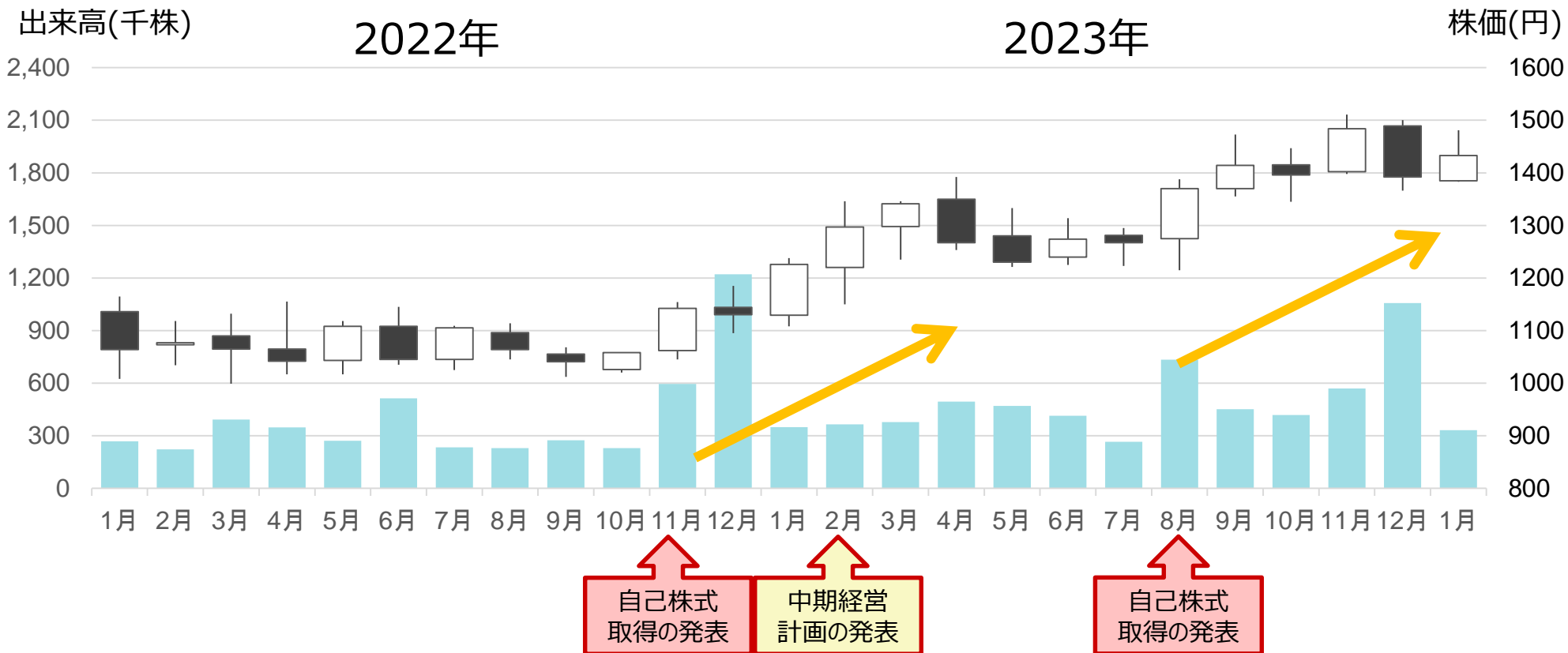
	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
ROE(%)	3.3	4.6	5.6	7.0	6.7	7.6	7.5	7.0	5.8	6.0
PBR(倍)	0.45	0.50	0.55	0.84	0.60	0.67	0.61	0.52	0.49	0.56
PER(倍)	14.0	11.0	9.9	12.4	9.0	9.2	8.4	7.7	8.7	9.7



## トピックス

- ・ROEは2008年からの13期連続経常利益増益のなか、2017年に7%台まで上昇し、これを維持してきたが、2022年急激な原材料高騰により減益となったことで5.8%に低下。2023年は収益力を強化し6.0%に増加。
- ・ROEが7%台に到達した2017年にPBRは0.84倍まで上昇したがその後は0.5～0.6倍で推移

# 株価・出来高の推移



## トピックス

- ・2022年10月までの株価は1,000~1,100円で推移してきたが、2022年11月の自己株式取得の発表、2023年2月の中期経営計画発表以降、株価が上昇。
- ・2023年8月にも2度目の自己株式取得を発表し、株価が上昇。
- ・2022年末は株価低迷により、流通株式時価総額がプライム市場の上場維持基準100億円を下回っていたが、2023年末は株価を改善させた結果、125億円に増加。  
(2022年10-12月平均株価 1,096円/2023年10-12月平均株価 1,427円)

流通株式数の増加、株価向上に取り組み、プライム市場上場維持基準に適合していなかった、流通株式時価総額を改善

基準項目	2022年度	適合状況	2023年度(当社算出)	適合状況
株主数(単元株主)	5,701人	○	5,603人	○
流通株式数	8,537千株	○	8,776千株	○
流通株式時価総額	93.5億円	×	125.2億円	○
流通株式比率	41.1%	○	42.2%	○
一日平均売買代金	21.5百万円	○	32.4百万円	○

## 企業価値向上のための主な取り組み

株主還元強化	増配の継続	2023年度は年36円(前年比+5円) 中期経営計画の期間中は、年5円の増配を継続。
	自己株式の取得	2022年11月～23年4月 500,000株 595,351千円 2023年 8月～(継続中) 380,500株 536,140千円(2023年12月末時点)
	株主優待の拡充	株式投資魅力向上策として優待制度を拡充 保有株式100株以上に対する優待制度を新設。さらに300株以上は増額。
IR活動強化	株主との対話	IRミーティング・個人投資家向け会社説明会などを実施。
	開示情報の充実	「サステナビリティ基本方針・マテリアリティ」「統合報告書」など 非財務に関する情報の開示を積極的に実施

## 将来見通し等に関する注意事項

本資料における当社グループの今後の計画、戦略等の将来見通しに関する記述は、現時点で予測可能な合理的判断に基づいて作成されたものであり、実際の業績は、今後様々な要因で異なる場合がございます。



# Appendix

社名	立川ブラインド工業株式会社 証券コード7989
創業	1938(昭和13)年5月※昭和22年に株式会社改組
資本金	44億7,500万円
連結総資産	631億円
売上高	連結 413億円 (単体 314億円)
従業員	連結 1,289人 (単体 828人)
本社	東京都港区三田三丁目1番12号
事業	各種ブラインド／間仕切／ カーテンレールの製造・販売・設計施工  【営業拠点】 全国14支店59営業所(出張所含む) 【製造拠点】 2工場3製作所 【ショールーム】 10カ所 (海外1カ所含む) 【ディスプレイスペース】 2カ所 【連結子会社】 8社



本社

支店・営業所 国内73カ所  
 ショールーム 国内11カ所  
 ディスプレイスペース

- 本社
- ★ ショールーム・ディスプレイスペース
- 支店
- 営業所
- ▲ 工場
- ▼ 製作所



2工場・3製作所



《主要拠点にショールーム  
 ディスプレイスペースを設置》

- 銀座ショールーム
- 札幌ショールーム
- 仙台ショールーム
- さいたまショールーム
- 横浜ショールーム
- 名古屋ショールーム
- 大阪ショールーム
- 広島ショールーム
- 福岡ショールーム
- 上海ショールーム ……海外(中国)
- 新潟ディスプレイスペース
- 金沢ディスプレイスペース

※2024年3月1日現在

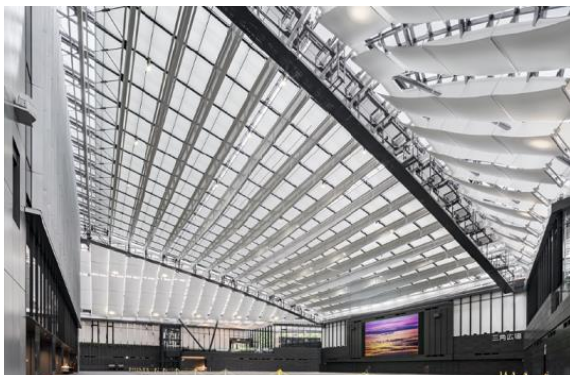
## 用途は、「住宅向け」だけでなく、「オフィス向け」、「公共施設向け」など多様

### 光を演出する、 お部屋をコーディネートする。

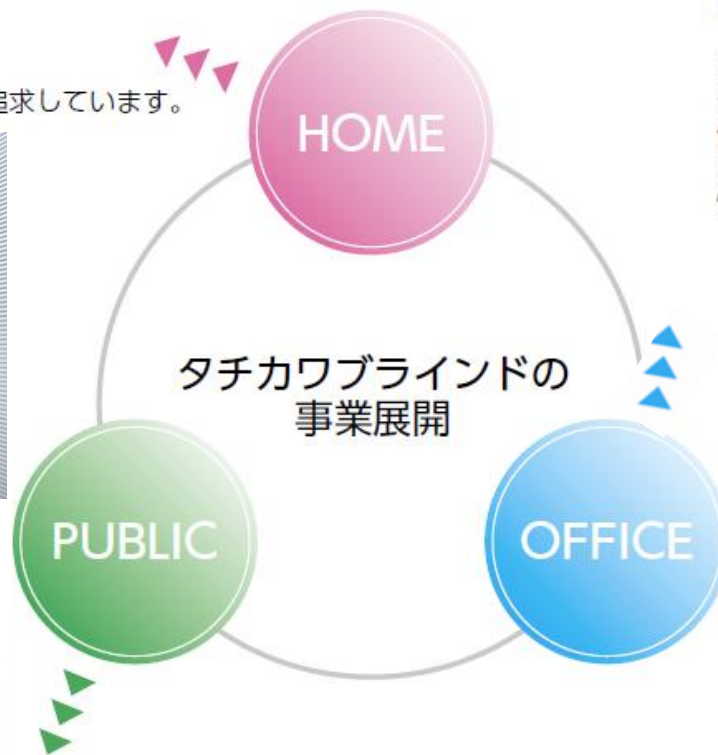
本当にリラックスでき、  
快適さを実感できる空間とはなにか…。  
私たちは、性能、素材、色彩など、  
さまざまな視点からその本質をつねに追求しています。



パーフェクトシルキー



新宿住友ビル三角広場



### 高度化するビジネス空間を、 もっと快適に。

オフィスで働く人たちが  
仕事に専念できる環境をつくるために。  
優れた操作性や省エネ効果の高い  
ブラインドなどを取り揃え、あらゆる  
快適空間づくりの提案を行っています。



左：丸の内ビルディング  
右：東京ミッドタウン八重洲

### 公共施設にふさわしい快適性を追求。

タチカワブラインドは、今までに庁舎、ホテル、学校、病院、スポーツ施設など、  
都市のシンボルとなる建築物をはじめとしたさまざまな公共施設に納入した確かな実績を誇ります。



## 近年、遮蔽性などの付加価値の高い高機能製品の開発、提案を中心とした需要喚起、ラインナップ拡充



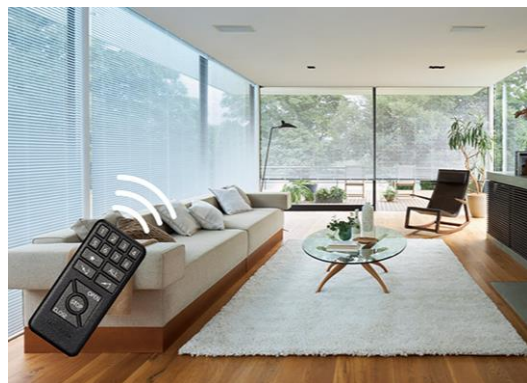
昇降コード穴がない遮蔽性の高い  
ヨコ型ブラインド「パーフェクトシルキー」  
2023年5月 スラットカラーリニューアル



スラットの反射光による眩しさを抑えて  
省エネを実現する「グロスレス遮熱スラット」  
タテ型ブラインドにも展開 2023年2月発売



ロールスクリーンやタテ型ブラインドに  
トレンドのインテリアに合わせやすい  
カラフルな生地 2023年3月発売



住宅向け電動製品シリーズ  
「スマートインテリアシェード ホームタコス」  
HEMSに対応 2023年7月発売



間仕切「プレイス」「プレイス スウィング」に  
新たなデザインやオプションを追加  
2023年10月発売



デザインと機能がさらに充実した  
カーテンレール  
2023年9月発売

## 採光と眺望を自由にコントロールできる調光ファブリック製品を新発売

### 調光ロールスクリーン「ルミエ」



2023年7月新発売

- ・2枚のレースの間にドレープを配した立体構造の調光ロールスクリーン。プライバシーを守りながら採光と眺望をコントロール。
- ・2023年度グッドデザイン賞を受賞。

### 調光タテ型ブラインド「エアレ」



2024年2月新発売

- ・タテ型ブラインドのスタイリッシュさと、カーテンのやさしい雰囲気をあわせもつ調光タテ型ブラインド。
- ・ドレープとレースが一体となったU字状生地を取付け、採光と眺望を自由にコントロール。